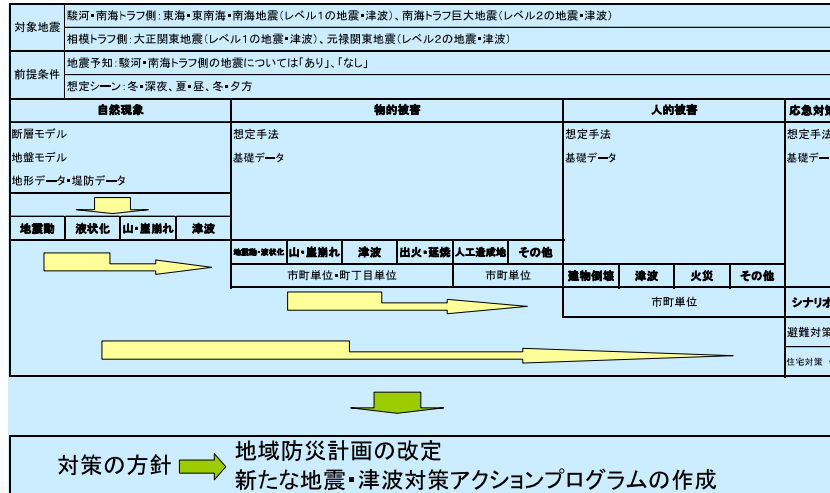


平成24年11月20日 静岡県防災・原子力学会議 第3回地震・火山対策分科会

## 第4次地震被害想定 の 検討状況



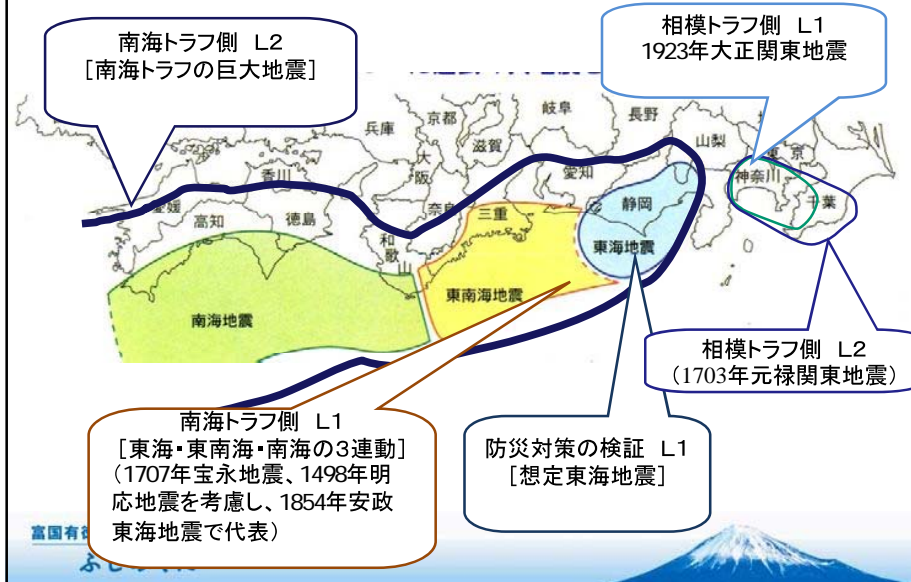
富国 有徳の理想郷 - しずおか

ふじのくに

### 静岡県第4次地震被害想定の対象地震(案)

	あらゆる可能性を考慮した最大クラスの巨大な地震・津波	比較的高頻度で繰り返し発生する地震・津波
津波	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波</li> <li>津波防災地域づくり法における想定浸水域の設定に用いる津波(レベル2津波に相当)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生頻度は比較的高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波</li> <li>海岸堤防等の整備の基準となる津波(レベル1津波に相当)</li> </ul>
駿河トラフ側	<ul style="list-style-type: none"> <li>南海トラフの巨大地震(M9,内閣府2012)による地震・津波</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海・東南海・南海地震の連動を想定 → 1854年安政東海地震(M8.4)のモデルを用いた地震・津波(1707年宝永地震、1498年明応地震を検証用に適用)</li> </ul>
相模トラフ側	<ul style="list-style-type: none"> <li>1923年大正関東地震(M7.9)をモデルに用いた地震</li> <li>1703年元禄関東地震(M8.1)をモデルとした津波高等を考慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1923年大正関東地震(M7.9)をモデルに用いた地震・津波</li> </ul>
	想定東海地震(M8,第3次地震被害以降の防災対策の検証として)	

## 静岡県第4次地震被害想定の対象地震(案)



## 静岡県第4次地震被害想定における対象地震の震源・波源モデル(案)

	あらゆる可能性を考慮した最大クラスの巨大な地震・津波(レベル2相当)	比較的高頻度で繰り返し発生する地震・津波(レベル1相当)
駿河トラフ側	地震動 【南海トラフの巨大地震】 ・内閣府(2012)モデル(M9) 基本ケース、陸側ケース、経験的手法	【東海・東南海・南海地震の3連動】 ・中央防災会議(2003)モデル
	津波 【南海トラフの巨大地震】 ・内閣府(2012)モデル(M9.1) ケース①、ケース⑥、ケース⑧	【東海・東南海・南海地震の3連動】 中央防災会議(2003)モデル 【1854年安政東海型地震】 石橋(1976)モデル 【想定東海地震】 石橋(1976)モデル
相模トラフ側	地震動 【1703年元禄型関東地震】 ・行谷ほか(2011)モデル(M8.1) 「不均質すべり」によるモデル	【1923年大正型関東地震】 ・行谷ほか(2011)モデル(M7.9) 「不均質すべり」によるモデル
	津波 【1703年元禄型関東地震】 ・行谷ほか(2011)モデル(M8.1) 「不均質すべり」によるモデル	【1923年大正型関東地震】 ・行谷ほか(2011)モデル(M7.9) 「不均質すべり」によるモデル

富国有徳の理想郷—しずおか

ふじのくに

## 前提条件

- 地震予知

駿河・南海トラフ側は「あり」、「なし」を設定

- 設定シーン

想定される被害が異なる3種類の特徴的シーン  
(季節・時刻)を設定

- ①冬・深夜(多くが自宅で就寝中に被災)
- ②夏・昼頃(自宅外で被災するケースが多い)
- ③冬・夕方(火気使用が最も多い時間帯)

富国有徳の理想郷—しずおか  
ふじのくに



## 物的被害

- 建物被害

地震動、液状化、山・崖崩れ、津波、出火・延焼、  
人工造成地による被害を想定

- その他被害

ブロック塀等の転倒、屋外落下物の発生等による  
被害を想定

富国有徳の理想郷—しずおか  
ふじのくに



## 人的被害

- 建物倒壊  
地震動、山・崖崩れによる木造・非木造建物倒壊を原因とする被害を想定
- 津波  
逃げ遅れによる被害を想定
- 火災  
炎上出火家屋からの逃げ遅れ等による被害を想定
- その他  
屋内収容物移動・転倒等による被害を想定

富国有徳の理想郷—しずおか  
ふじのくに

## 応急対策

### ○12のシナリオを想定

①全体、②自然現象・建築物被害・火災等、③県災害対策本部、④地震予知状況下を実施する地震防災応急対応、⑤ライフライン、⑥救出救助・医療救護対応、⑦避難対応、⑧住宅対応、⑨交通・緊急物資確保対応、⑩し尿・ごみ・瓦礫対応、⑪経済影響、⑫県民生活



### ○新たに追加して検討する要因

・超高齢社会化や災害時要援護者の増加がもたらす影響  
・社会インフラの高経年化がもたらす影響  
・富士山火山噴火がもたらす影響  
・原子力事故がもたらす影響 など

富国  
ふじのくに